

一般質問



大花務

Q 市役所本庁舎の耐震補強と大規模改修事業の内容について

A 耐震補強工事は、4階と5階

及び塔屋の重量を減らすため議場の吹抜け部分と塔屋2階部分を減築する。議場と正庁の屋根を軽量なものに葺き替える。大規模改修工事は、防災拠点として支障をきたさないようにする。耐震補強とあわせて老朽化した給排水・受変電設備・換気設備・エレベーターのほか内外装・LED照明に改修する。今回の改修工事で5階の選挙管理委員会事務局及び監査委員会事務局4階の議会事務局2階の産業部や建設部及び農業委員会が表郷庁舎へ移る。下水道課が都市環境センターへ移る。これらの移転期間は約1年から2年である。地下1階の土地改良区は既に12月3日に天神町に移転している。



〈築53年の白河市中心中央公民館〉

Q 表郷公民館以外の3地区の公民館建設について

A 平成29年3月に財政課でまと

めた「白河市公共施設等総合管理計画」に基づき今後の方向性を総合的に検討している。



〈白河市立図書館〉

Q 図書館を多くの人に利用してもらうために「本の福袋」の貸出しを行ってみたいかどうか

A 本の利用は一冊ごとに様々

あり、蔵書の中で隠れた一冊を紹介し活用することは、本と人の出会いの場としての図書館として大切な機能であり、「本の福袋」については、今後の蔵書の冊数や内容を視野に入れながら、本との出会い充実のため、他自治体の実施状況を調査していく。

Q 児童・生徒のカバンや荷物の重量を軽減するために学校へ「置き勉」をすることについて

A 文部科学省からの事務連絡

「児童生徒の携行品に係る配慮について」を受け、教科書やその他の学用品が過重になることで、児童生徒の健やかな身体の発達に悪影響が生じないように、各小中学校に適切な配慮を講じるよう依頼したところである。



室井伸一





玉川 里子

Q 観光行政について伺う

A インバウンドを進めるため、那須町、西郷村と連携し、台湾やベトナムを訪問、PR等知恵を出し合い取り組む。国内観光客誘致事業についてもより経済効果が波及するようなイベントについて検討する。

Q

子育て支援について、今年4月1日妊婦の医療機関の外来を受診した際に医療費が上乘せされる「妊婦加算」が導入され多くの批判があり、子育て支援を進めている一方でまさにその流れに逆行していると思うが市としての考えを伺う

A

この制度は通常の妊婦検診と歯科外来全ての診療で加算されるため、厚生労働省が検討を始めたため今後の動向を注視していく。



A 学習を助けるうえで極めて重要であり、その充実は不可欠である。一部の学校で部活動で使用する楽器等の不具合について確認しており、今後他校の状況を踏まえ、対応を検討する。

Q 教育行政について学校の教材や部活動用具について伺う

Q

公共施設等総合管理計画は平成29年度よりスタートしてから一年半が経過し、現状の進捗と課題を伺いたい

A

固定資産台帳整備については、ほぼ完了し、年度毎の更新作業をしている。施設力ルテは昨年様式を定め作成完了済み、施設利用実績に合わせ更新作業をしている。今後32年度を目標に学校やスポーツ施設等の用途ごとに長寿命化を図り維持していく施設や老朽化の状況や稼働率から統合・廃止する施設などの方向性を盛り込んだ個別計画を策定し、特に施設の統合や廃止の検討にあたっては市民の皆様と十分な意見交換を行うことが大変重要であると考えている。

Q

ため池放射性物質対策実施進捗状況を伺いたい

A

本市で対象となっている17池のうち今年度は11池を実施し残り6池は来年度に実施予定である。11月末現在7池は土壌吸引・運搬を完了し、残り4池も来年2月末までには完了する見込みである。



〈飯沢ため池放射性物質対策工〉



佐藤 正則

Q 特別支援教育支援員配置事業の増員に向けた計画、放課後子ども教室について伺う

A 特別支援教育支援員は現在小中学校に40名配置、2名増員に取り組んでいる。放課後子ども教室は東・表郷・大信の3小学校で取り組んでいる。

Q 前年の酷暑の影響から、未設置の特別教室や学校体育館のエアコン設置について伺う

A 特別教室はエアコン設置の方向で検討するが、体育館への設置は考えていない。

Q 国体記念体育館・学校体育館の安全点検について伺う

A 国体記念体育館については管理用階段の手すりを取り付け一般の方の立ち入りを禁止、学校体育館階段については使用中等の対策を講じている。



Q 直近のタクシー補助の実証実験への市民の申請状況及びタクシー補助事業実施に向けた、市の考えについて伺う

A 申請者数は市全体で70人である。事業化に向けては、実証実験結果や利用者アンケート結果をもとに、事業効果や利用実態の分析を行って実施の方向性を探っていく。



藤田 久男

Q 公文書管理は何年間管理しているかについて

A 公文書管理は何年間管理しているかについて
政治問題になった、加計学園や森友学園を巡る、決裁文書改ざんがきっかけで、適正管理がとりだされている。市ではどのような文書管理規程があるのか

A 文書管理規程において、当該文書の分類ごとに、永年、10年、5年、3年、1年と定めている。永年とした、文書は20年を経過することによって継続して、保存する必要があるかどうか協議して決める。



Q 学校環境づくりについて
入管法改正による外国人の子どもの教育環境について

A 本市では現在外国籍児童生徒数小学校15名、中学校9名在籍している。今後は入管法の改正により急激な増加がある場合、国や県の動向を踏まえながら対応したい。

Q 放射線教育の現状と課題について

A 放射線教育の現状と課題について
新学習指導要領では中三理科で始めているとなっているが市教育委員会での現状はどうなっているか

A 放射線の性質と利用について学習している。今後でもできる限り財政を確保して放射線教育を継続する考えである。



北野唯道

Q 足元の資源について市長に伺う

A 私は市長就任の折から、白河には他に誇れる資源が数多く存在し、これに光をあて磨きをかけることが本市の発展には何よりも大切である。小峰城についても、歴史的価値を明らかにするために国史跡指定の取り組みを行い、平成22年8月3日に国指定を受けたところである。

Q 朝食の摂取と学力の因果関係について教育長に伺う

A 全国学力・学習状況調査の結果では全国の傾向として朝食を食べる児童生徒の方がそうでない児童生徒よりも学力が高いという結果がでているが、本市においても同様の傾向が見られる。



Q 平成29・30年度の市民からの要望・陳情件数について伺う

A 平成29年度は民生生活部8件、保健福祉部1件、産業部10件、建設部32件、教育委員会3件で合計54件。平成30年度は民生生活部13件、産業部10件、建設部48件で合計71件となっている。

Q 要望に応えた件数は何件あるか

A 平成29年度民生生活部、建設部、教育委員会合計で24件。平成30年度5件となっている。



石名国光

Q 復興小峰城跡の北側石垣の樹木伐採について

A 追廻地内の石垣は、高さ7mで延長180mに及び石垣が杉林に隠れて周囲から全く見えない状況になっている。基本計画では、石垣全体を見渡せるように、樹木などの必要な措置を講じることとしている。29号バイパス供用開始を考慮し実施時期を検討する。

Q 白川城（搦目城）の現状と今後の活用について

A 白河結城氏の居城としての遺構が評価され、平成28年に、国指定の史跡指定を受け現在は進入路の整備等の維持管理を行っている。今後は整備基本計画を策定し、整備を進めていく。



Q 地域防災意識向上と警報発令時の周知は、戸別受信機が有効と思うが見解を伺う

A 自主防災組織の育成・支援として各種補助金交付と市民の防災対策として、総合防災訓練への参加呼びかけや防災出前講座を開催している。防災情報を迅速・的確に伝達する新システムを検討中であり、戸別受信機も有効な手段として位置づけている。



大竹 功一

Q 第2期中心市街地活性化基本計画が本年度で終わる。成果と課題及び第3期に向けた取り組みについて伺いたい

A 1期は54事業中50事業、2期は96事業中95事業が年度末までに完了又は完了予定である。目標指標については目標値に到達していないものもあるが、各種の事業によりその効果はあるものと評価している。3期については、商工会議所・楽市白河・市担当課などで構成するタウンマネージメント会議と協議会の構成団体等で構成されたワーキンググループで作業を進めており、来年2月ごろには、パブリックコメントを実施したいと考えている。

Q 先日、両足の足先が縛られ足先が壊死してしまった野良猫を発見し、保護した。数年前にも同様の事案があったと関係機関から聞いた。これらは懲役刑もある重大な犯罪である。市民に対して更なる啓発が必要だと考えるが所見を伺う

A 第1には県動物愛護センターが対応すべき事案である。センターや警察署などと相談し、対応していきたい。

Q 観光行政について

白河を訪れた観光客のみやげ物や土産などを買いたいという購買欲に応えるために、買い物する楽しみを提供する場所、つまり名所旧跡を散策しながら買い物も楽しめる通りや土産館、道の駅等の整備をして白河を訪れた観光客の満足度を上げる取り組みをしてほしい

A 関係団体と連携し意欲的な事業者を支援し、観光の方向性や具体的な取り組みをまとめた観光振興計画を策定する。

Q マイタウンの駐車場不足について

A 分散していて分かりづらいので周知に努める。

Q コミネスの駐車場をコミネス側に確保してほしい

A 要望が寄せられているので、対応策を議論しているが引き続き課題解決に向けて検討していく。

Q まちなかの憩いの場を整備してほしい。

A 地域の方々の意見を踏まえ、ベンチなどの設置を検討していく。





高橋 光雄

Q

本市は、長期的に人口激減が予測されている。市長は折に触れて「的確な施策を講じていけば、白河市は『小粒だが、活気に満ち、魅力あふれる、住みやすいまち』として十分にやっていける」と発言している。本市の将来像を問う

A

住みやすいまちをつくるためには、安定した収入が得られるため、将来の生活設計を描けることが必要。そのために、①地域の産業力を高め、魅力ある雇用の場が確保される施策、②安心して子育てができる施策、③教育の分野では、学力向上に加え、豊かな感性など総合的な人間力を育てる施策、④歴史や文化を活かし、観光などを通して交流人口を増やしていく施策、⑤地域のコミュニティや市民活動が活発に行える施策、などの各施策を相互に連携し行う。



これら施策の実現のため、健全な行財政運営を維持し、必要などころに財源と人材を充てる。さらに県南地域・栃木県北との連携を図り、イキイキと魅力あるまちを目指す。



須藤 博之

Q

骨髄移植ドナーに対する助成制度と現状について

A

ドナー登録者は30年3月現在で516名であり、ドナー提供者は平成18年度から27年度までの10年間で6名である。市としてドナー提供者の支援を行うため、県の補助事業を活用した助成制度の実現に向けた検討を進めていく。

Q

交流人口増加策と情報発信について

A

雇用の場の確保と子どもを預けられる施設や休日医療体制などの整備に努め、本市の豊かな自然や奥深い歴史、文化などの地域資源を活かしたシティブロモーションを強化している。PR効果の高いイベント等の開催やマスコミの活用その他、ソーシ

Q

ヤルメディアなどのツールを活用し、積極的に魅力発信をしていく。

A

食糧備蓄品と避難所運営・環境づくりについて

Q

食料備蓄品は2000食を目安とし、アルファ化米、ライスクッキー、缶詰を計画に備蓄し、ダンボールベッドや簡易トイレを配備するなど、良好な避難所運営に努めていく。





岩崎 洋一

Q 第一期、第二期計画が予定通り進行して、白河市の顔が白河駅前を中心に大きく変わった。

これまでは、行政、商工会議所、そして楽市白河が主導してハード、ソフト事業が進められてきたが、第三期計画は、完全な民間主導で主にソフト事業を展開していかねばならないと考えられるが、第三期計画の策定に対する市長の思いをお聞かせ願いたい

Q

市の施設である「白河ゴルフ倶楽部」を有効に活用して、プロゴルファーを目指す子どもの利用無償化や指導環境の充実を図るための指導者を確保して、プロゴルファーを目指す子どもを持つ家族をターゲットとして、移住定住を勧めるべきではないか

A

実現性などを含め、議論を深めて行く。

Q

税務課窓口の対応について全国的に地方税の滞納処分で「過酷な取り立て」が行われ問題になっている。市の税務課窓口においても、職員の高圧的な対応についての告発（「白河民商ニュース」No.1917）がある。実際にどのような対応を行っているのか。マニュアルはあるか



深谷 弘

Q

実際の納税相談は、法を盾に厳しい対応が行われているのではないかと。全国には生活困窮者等に寄り添い、生活状況を丸ごと受け止め対応している自治体もある。市の対応はそうになっているのか

A

職員は相談者と真摯に向き合い、実情を踏まえて納税相談を行っている。

A

三期計画では、居住人口の増加に向け、空きバンクの活用や住宅取得支援の充実を図るとともに、空き店舗バンクの創設を通して、利活用が可能な空き店舗の掘り起こし及びその具体的な活用を図って行く。



〈白河文化交流館コミネス〉

A

マニュアルは無いが、法に従い、「滞納整理の手引き」を参考にしている。実際には、法に則り毎年度の徴税基本方針を定め、職員の意思統一を図りながら、効率的・効果的な税の徴収に努め、その結果は収納率向上につながっている。また、納税者の事情を丁寧に聴き取り、納税相談を行っている。

